簿記2級 合格までの勉強法 5ステップ

コーチングで実際に使っている勉強の進め方を、5つのステップにまとめました。この順番どおりに進めれば、約200〜250時間（4か月ほど）で合格レベルの実力をつけることができます。

まず押さえたい：簿記2級の試験の形

大問	主な出題	配点
第1問	仕訳	20点
第2問	連結会計、株主資本等変動計算書など	20点
第3問	決算（財務諸表の作成など）	20点
第4問・第5問	工業簿記	40点

合格点は70点

100点満点中70点で合格。つまり30点分は落としてもいい試験です。全部を完璧にするのではなく、**どこで点を稼ぎ、どこはある程度で止めるか**を決めて勉強することが大切です。

点を稼ぐのは「仕訳」と「工業簿記」

この2つができれば、合格にぐっと近づきます。

使う参考書

TACの「みんなが欲しかった！」シリーズを前提にしています（ほかの参考書でも、進め方はそのまま使えます）。

- 商業簿記の教科書・問題集
- 工業簿記の教科書・問題集
- 予想問題集

「教科書なしで問題だけ解けば受かる」といった極端なやり方は、かえって遠回りになりがちです。

合格までのロードマップ

ステップ	やること	期間の目安	勉強時間
1	第1問 仕訳対策	約1か月	約70時間
2	工業簿記対策（第4問・第5問）	1か月ちょっと	約80時間
3	第3問 決算対策	約1週間	約14時間
4	第2問対策（連結会計など）	約2週間	約28時間
5	直前対策（予想問題の演習と復習）	予想問題集を3周	約40時間
合計			**約200〜250時間**

時間は1日2時間ほど勉強する場合の目安です。直前対策にかかる時間は人によって大きく変わります。

5つのステップ

ステップ1　第1問 仕訳対策

約1か月・約70時間

やり方 商業簿記の教科書で、第1問（仕訳）の部分を2〜3周。仕上がったら、問題集の仕訳を2〜3周します。問題集は本試験レベルなので、難しいときは教科書を見ながら解いてOK。完璧にならなければ4周、5周しても大丈夫です。

ポイント

- **いちばん大事な土台**
  仕訳ができると第1問の20点が取れるだけでなく、第3問の決算や第2問の株主資本等変動計算書にも強くなります。仕訳を制する者が簿記を制します。
- **無意識で解けるレベルまで**
  「1＋1＝2」がすぐ浮かぶように、考えなくても仕訳が出てくるまでくり返す。本試験は時間が足りないので、迷っている時間はありません。
- **理解を追い求めすぎない**
  目的は合格。たとえば税効果会計は、深く理解しようとすると1級の内容まで必要になりますが、2級では数種類の仕訳が書ければ点が取れます。
- **仕訳は慣れ**
  1回で丁寧に覚えようとしなくて大丈夫。最初はできなくて当たり前です。何度もくり返すうちに自然とできるようになります。

ステップ2　工業簿記対策（第4問・第5問）

1か月ちょっと・約80時間

やり方 工業簿記の教科書を2〜3周して基礎を完璧にします。仕上がったら、問題集を2〜3周して本試験レベルの問題も解けるようにします。足りなければもっと回してもOKです。

ポイント

- **配点は40点**
  ここを落とすと合格はほぼ不可能。第2問・第3問は高得点が安定しにくいので、工業簿記で点を稼ぎます。
- **とにかく手を動かす**
  工業簿記は、ボックス図（総合原価計算）やシュラッター図（標準原価計算）などの下書きが書ければ、答えは自然に出てきます。読むだけ、動画を見るだけでは進みません。わかるところからでいいので、下書きの数字を1つずつ埋めていきましょう。

ステップ3　第3問 決算対策

約1週間・約14時間

やり方 問題集の第3問対策の部分を2〜3周します（時間がなければ1周でも）。目標は6〜7割（12〜14点ほど）。満点を狙う必要はありません。

ポイント

- **まずは決算整理仕訳だけ**
  最初から解答欄（貸借対照表など）への記入までやると大変なので、まずは決算整理仕訳を書けるようにする。仕訳が完璧になってから、記入の練習に進みます。
- **難しい部分は思い切って捨てる**
  貸借対照表の合計金額や繰越利益剰余金のように、手間がかかるわりに配点が低いところは、捨てる判断も大切です。
- **製造業会計は優先度を下げる**
  出題されることが少ないわりに対策が大変です。オーソドックスな決算問題と本支店会計ができれば、基本的に点は取れます。

ステップ4　第2問対策

約2週間・約28時間

やり方　1週間は連結会計、もう1週間は連結会計以外（株主資本等変動計算書など）にあてます。連結会計は5〜7割、それ以外は6〜7割が目標。株主資本等変動計算書は難しくないので、できれば満点を狙います。

ポイント

- **連結会計は完璧を目指さない**
  タイムテーブルを書けるようになるのがいちばんコスパのいい方法。部分点を取れればいいと割り切って、時間をかけすぎないようにします。
- **第2問が解けない原因は、たいてい仕訳**
  第2問が苦手な人の多くは、実は第1問の仕訳がまだ仕上がっていません。仕訳を完璧にしてから第2問に進むと、スラスラ進みます。

ステップ5　直前対策

予想問題集を3周・約40時間

やり方　予想問題を本試験のつもりで解き、そのたびに教科書も見ながら徹底的に復習する。この2つだけをくり返します。

ポイント

- **復習は仕訳と工業簿記を優先**
  連結や決算に時間をかけすぎると点が伸びません。点を稼ぐ仕訳と工業簿記から復習します。
- **いきなり合格点が取れなくて大丈夫**
  合格した人の9割以上は、最初から合格点は取れていません。初回は50点前後取れていれば問題なし。解説を読んで「なるほど」と思えるなら、実力はついてきています。「見たことない」と感じたら、ステップ1〜4に戻りましょう。
- **復習は必ず教科書とセットで**
  予想問題の解説は最低限の内容です。教科書もいっしょに確認することで、応用問題にも対応できる幅広い知識がつきます。